

ちゃんぷるー

神奈川県立 高校 25 期生

修学旅行委員会広報

第 1 号

文責 顧問 石井誠一

今年はいよいよ、修学旅行です。この沖縄修学旅行へ向けて、旅行委員会広報の「ちゃんぷるー」を作りました。さいきんは時々聞かれるようになってきた「ちゃんぷるー」という言葉ですが、もともとは沖縄の料理の名前。「ゴーヤーチャンプルー」がもっとも代表的ですが、とにかくなんでも油でいためるとチャンプルーになってしまいます。

例えば、

ゴーヤーチャンプルー ゴーヤー（にがうり）を薄くスライスして豆腐や玉子といためたものゴーヤーの苦味は塩もみで調節する。ビタミン C が多く含まれており、夏ばて防止にはもってこいの料理。

フーチャンプルー 沖縄独特の巻き麩（ふ）をニンジンやタマネギなどの野菜といため、玉子をからめた料理。定食屋では定番メニュー。

ソーミンチャンプルー そうめんを固めにゆでて、水気をきり、しいたけやツナなどといため、塩・醤油で味をつけたもの

マーミチャンプルー もやし（マーミ）をつかったチャンプルー
といった感じです。

このチャンプルーにはもともとは料理用語で「混ぜ合わせる」という意味ですが、その意味をつかって沖縄文化を「**チャンプルー文化**」ということもあります。これは、沖縄の文化の多様性から来ています。

沖縄文化には 14 - 15 世紀の貿易のさかんだったころに日本からの文化、朝鮮や中国の文化、さらには東南アジアの文化もまざっています。またその後の薩摩の琉球侵略、明治の琉球処分、沖縄戦、米軍による沖縄統治、日本への返還などの歴史を経て、さらに「オキナワンロック」や「英語と方言との笑い話をもとにしたショー」などをうみだしていきました。そういうどんな時代にも、新しい文化を生み出して行くやわらかい感性をもっているのが沖縄文化なのです。

昨年 9 月のアメリカでのテロ事件後、沖縄の修学旅行はキャンセルがあいついで、修学旅行団体で全国の半分くらいがキャンセル、神奈川県でも 1 / 4 くらいがキャンセルしました。（生田東の 24 期生は行きましたね）沖縄県は観光が重要な収入源ですから、このキャンセルは沖縄県民の生活に直接かかわる大問題で、すこしずつもとにもどりつつはありますが、今もその打撃は完全にはもとにもどっていません。

沖縄はいろいろな体験のできるおもしろいところです。（ですから多くの学校が沖縄修学旅行を企画しているのです）ぜひみなさんも、沖縄でいっしょに「ちゃんぷるー」の体験をしましょう。

次回以降も、旅行委員もふくめていろいろの情報を広報します。ぜひ読んでくださいね。

ちゃんぷるー

神奈川県立 高校 25 期生
修学旅行委員会広報
第 号
文責 顧問 石井誠一

<無知はやめよう——「よっぱらい男」のはなし>

「ひめゆりの塔」に行ったときの事です。私はひめゆり資料館の中の資料をみてから、外にでてきました。そこには大型バスからの団体客がいて、少し酒に酔った男が大きな声をあげて楽しそうにさわぎながら「ここがひめゆりの塔か」といって、写真を撮っていました。その団体は資料館には入らないで写真だけ撮って帰っていったようでした。

私はこれを見ていて「本当になさげなく」になりました。戦争がなければまず死ぬはずのない若い命（「ひめゆり」などの女子学徒隊も、「鉄血勤皇隊(てっけつきんのうたい)」などの男子学徒隊もだいたい 16 才から 18 才くらい、つまりまったく今の高校生です）が大勢犠牲になっている、そういうところで、「いい大人がなにをやっているのだ」と腹さえ立ってしまいました。

しかし、この「よっぱらい男」を非難する前に、私たちがきちんと戦争や沖縄戦などを学び考えてきたのかというところはたしかにあまりできていない。自分のことを考えても、戦争といえば「空襲と原爆」くらいで「もっとも悲惨な戦いのあった沖縄でどうい戦争があったのか」などきちんと学校で教わった記憶がない。これではこの「よっぱらい男」を簡単に非難することなどできないわけです。

今回、私が担任として 25 期生の皆さんを沖縄に引率していくことが決まったときから、わたしは少しでも「戦争についての知識を伝えて行く」ということを考えてきました。少し面倒な話もあるかもしれませんが。しかし「平和」というのは、「戦争にしない」という積極的な気持ちでやっていかないと守れないものです。また、自分たちだけの問題ではなく自分たちの子供や家族などに関係していく問題でもあります。これからなるべくわかりやすく沖縄戦についてまとめていきますので、少しつきあってみてください。どうか無知な「よっぱらい男」にならないでください。

<旧日本軍と沖縄>

日本は、明治以来ずっと戦争をしてきた国です。1894—1895 日清戦争(対中国)、1904—1905 日露戦争(対ロシア)、1918 第一次世界大戦参戦(対ドイツ)、1931 満州事変(対中国)、1937 日中戦争(対中国)、1941 太平洋戦争 というようにほとんど10年くらいの間隔で戦争を起こしています。その中で注意するポイントは、日本が実際に戦争をしている場所はすべて外国であることです。つまり、旧日本軍は国民をまもる軍隊ではなく、外国を侵略するための軍隊だったわけです。

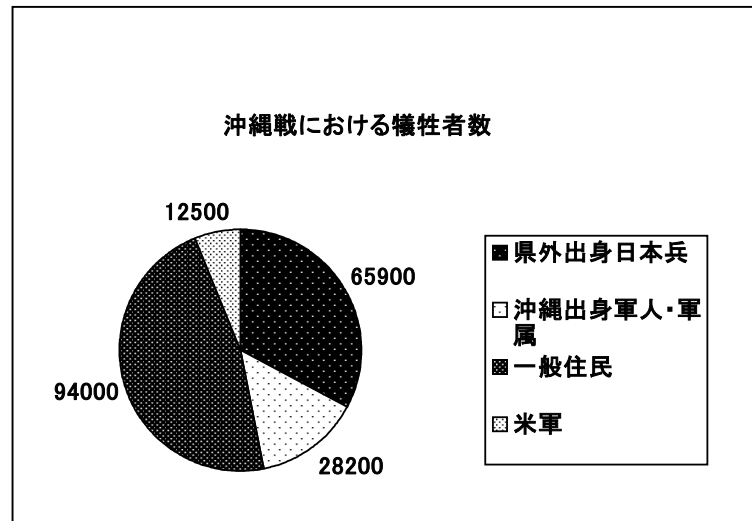
それがだんだん太平洋戦争の末期になって、ついに日本の国内で戦うことになったのが沖縄でした。しかし、日本の軍隊は他国を侵略することだけしかしていなかった、しかも略奪や虐殺のようなことばかりしていたので、沖縄で「国民を守るような戦い方」はできなかったのは当然だと言えるでしょう。

そういう旧日本軍の体質に加えて、本土(沖縄以外の)の人たちの沖縄の人たちへの偏見も相当ありました。言葉、生活習慣、過去の歴史、貧困などを理由に沖縄の人たちはかなり差別を受けていました。本土の人たちの偏見とそれを埋めるための沖縄の人たちの献身的な努力、そういういろいろの動きが沖縄戦をより大きな悲劇にしたと言えるでしょう。

<沖縄戦の特徴>

沖縄戦の特徴を簡単にまとめると

- ・ 勝ち目のない「捨て石作戦」であり、本土防衛・国体(天皇制)維持のための時間かせぎが目的の戦いであった
- ・ 一般住民を巻き込んだ国内唯一の地上戦が行われたために、軍人よりも民間人の被害が多かった(時間かせぎの戦い方だったためもある)
- ・ 軍事物資も軍人も国民を総動員して供給するという国家総動員体制の地方版として戦われた(つまり食料も兵力もすべて現地調達だった)
- ・ 住民が信頼していた日本軍による住民殺害事件が多発した
- ・ 戦争の終了後も米軍による軍事占領が長期に続き、日本国内における米軍基地の多くが沖縄に集中することになった(日本の基地のほとんどが沖縄にある)



- ・この戦没者数外に戦争前後のマラリアによる病死、餓死などを含めると一般住民の犠牲者は15万人に増える
- ・朝鮮人の戦没者約1万人は含まれていない
- ・**当時の沖縄県民の1/4が犠牲になった**

<沖縄戦は大成功！？ 軍隊の論理>

表をみるとわかるように、当時の県民の1/4という大変な数の住民が犠牲になっています。また、米軍の12500人という数も、他の激戦地といわれるガダルカナル島での犠牲者1598人、レイテ島での3500人と比べると大変おおきな数です。米軍の戦死者数だけでも、沖縄戦は太平洋戦争で最大の戦闘だったことがわかります。が、

「今から思えばああすれば良かったという点はあるが、作戦全般としては沖縄作戦は成功だったと思う」(防衛庁戦史室編『沖縄方面陸軍作戦』)

「まず、侵入者に硫黄島や沖縄のような犠牲者を予想させる位の善戦をする能力を持つことが理想です」(文芸春秋『戦略的思考とは何か』)

これが軍隊の論理。作戦の目的(つまり少しでも長く戦争を続けること。敵の犠牲者を一人でも増やすこと)にそったということでは沖縄戦は大成功でした。その目的のために、首里の主力部隊が壊滅後に(首里が陥落しても戦闘を住民を巻き込みながら続けたことで)多くの住民の犠牲がでたことは「軍隊としての作戦が成功したかどうか」では問題にならないことなのです。

<現地自給と違法な動員>

沖縄は本土防衛の捨て石作戦だったため、兵力も装備も不十分でした。そのために現地で多くの兵員が募集されました。これが防衛隊です。防衛隊は本来は17才以上45才までの男子が召集されるものですが、実際には15才の少年から50以上の老人までが動員されました。

また、中学校・女学校の生徒も動員されました。もともと17才未満の青少年の戦争参加は違法でしたが、結局男子1700名、女子550名が従軍しました。(学徒隊)

こうした防衛隊の6割、学徒隊の5割が戦死しました。防衛隊に夫を召集され一家の大黒柱を失った妻や子たちが、戦場をあてもなくさまよう姿が沖縄戦では数多く見られたのです。

また、陣地構築などの作業に老若男女多くの住民が協力させられたこと、つまり住民の軍への協力が逆に、「軍の秘密を知っている」「沖縄人はみんなスパイだ」という論理になり、日本軍による住民殺害という悲劇も生み出しました。

<集団自決>

日本軍は敵の捕虜になることを許していませんでした。その論理をすべての住民にもあてはめたため沖縄でアメリカ軍にとりかこまれた時住民にも死を強要しました。それは「死ぬことが立派で生きのこることは恥」「敵につかまったら惨殺される」という教育でもより強められていました。

自決といっても「軍の作戦の足手まといにならないように、いさぎよく自らの命をたつた」というような表現は間違い。自ら命をたつ力のない老人や幼児などが肉親や日本軍に殺された(死を強制された)というのが集団自決。最近では、軍人の自決と区別して、集団死という言い方もあります。

「集団自決」をここに刻んでより(渡嘉敷島の実話)

手榴弾は操作ミスも手伝ってか多くが不発に終わりました。どれほど時間がたったかわかりません。一人の中年男が一本の小木をへし折っているのです。そしてその小木が凶器へと変わったのです。彼は自分の愛する妻子を狂ったように殴殺しはじめました。(それに導かれるように)私たちは愛する肉親に手を掛けていきました。剃刀や鎌で頸動脈を手首を切ったり、紐で首をしめたり、こん棒や石で頭部を叩くなどさまざまな方法がとられました。母親に手をかしたとき、私は悲痛のあまり号泣しました。

私たちは「生き残る」ことが恐ろしかったのです。わが家は両親弟妹の4人が命を断ちました。幼い者、女性、老人など自らは死ねない弱い者、幼い者の命を先に処理してから、男たちは死んでいくという手順があったように思います。我先に死ぬ男性は一人もおりませんでした。愛するものを放置しておくということは、もっとも恐れていた「鬼畜米英」の手にゆだねて惨殺させることを意味したからです。

「生き残ったらどうしよう」との恐怖は頂点に達しました。私どもは「死の虜(とりこ)」になってしまっていたのです。当時の教育のすさまじさの身震いがします。

ちゃんぷるー

※※ (この号の最後に懸賞プレゼントがあります。最後まで読んで、廊下の展示などをみて応募してください) ※※

オキナワの基地について

沖縄の米軍基地

施設数	42施設・区域 (平成7年3月31日現在)
面積	244km ² (本土面積の10.8% 平成7年3月31日現在) 234km ² (沖縄本島にある基地の面積で、本島の19.5%を占める) 237km ² (米軍が占有している島嶼の面積で、在日米軍専用施設の75.0%を占める)
軍人など	約52,300人 (軍人・軍属・家族、平成7年12月31日現在) うち、海兵隊約26,000人、空軍約18,800人

米軍基地は、とりわけ人口や産業の集積している中部地域に集中し、計画的かつ体系的な都市造りや道路、産業用地の整備・確保に支障をきたしている。また、水域・空域にも米軍の管理権が多く設定されたため、振興開発を進めようと大きな障害となっている。

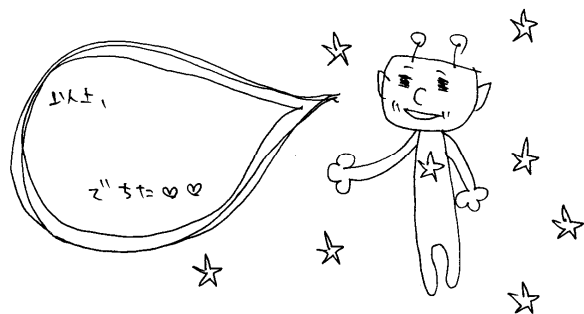
多発する事件・事故!!

米軍人・軍属による刑法犯罪は、復帰後平成7年12月末までに4,784件発生している。民間人が犠牲になった被害事件は12件発生している。また、基地に隣接する民間区では、住民は常に事故に対する恐怖と米軍と背中合わせの生活を余儀なくされている。特に航空機による事故は住民に大きな不安を与えている。基地が派生する事件・事故は跡をたたく。

米軍専用施設数の多い都道府県 全国94施設

1	沖縄	40 (42.6%)
2	神奈川県	16 (17.0%)
3	長崎	11 (11.7%)
4	東京	7 (7.4%)
5	広島	5 (5.3%)
その他 (8道県)		15 (16.0%)

固定翼機 (63件)	ヘリコプター (58件)
墜落 23	墜落 13
空中接触 1	移動中損壊 2
部品落下 14	部品等落下 7
着陸失敗 13	低空飛行 1
火炎噴射 1	着陸失敗 1
緊急着陸 11	緊急着陸 34



神奈川県立 高校 25 期生
修学旅行委員会広報
第 号
文責 顧問 石井誠一

< 沖縄の基地 >

沖縄の土地は日本全国の0.6%しかありません。その土地に日本全国の米軍基地の75%があります。沖縄県の11%が基地で、沖縄本島だけだと19%が基地です。嘉手納(かでな)基地のある嘉手納町では、なんと町の83%が基地です。沖縄県民にとっては基地は大きな問題なのです。

< 強制収容 >

太平洋戦争が終結して、アメリカの捕虜収容所に入れられていた沖縄県民は収容所から開放されましたが、戻って見ると自分の土地が米軍基地にされていました。その時は、自分の土地が無事だった人達も安心はできませんでした。アメリカは日本との戦争終了後もベトナム戦争などの戦争をするために多くの農民の土地をとりあげていきました。

< 嘉手納基地 >

嘉手納飛行場は、A・B二本の滑走路をもつ西太平洋最大の米空軍基地。戦略攻撃、救難、指揮・管制などの総合拠点の性格をもつ、危険性の高い戦略基地です。同時に、約2万人の軍人・軍属とその家族が居住し、兵舎や家族住宅の他、診療所、教会、学校(小学校から大学まで)、映画館、ゴルフ場、PX(売店)などがあります。

< 思いやり予算 >

在日米軍駐留経費で日本政府が負担しているのが「思いやり予算」で、1994年度で沖縄関係のみで620億円(ちなみに那覇市の一般会計は970億円)

< 沖縄返還と今の問題 >

多くの軍事基地が沖縄に残されていることで、米軍による暴行事件や演習中の事故、交通事故さらに実弾演習による環境破壊など簡単には解決しそうな問題が数多くあります。

また、沖縄の経済は過去は砂糖に依存していましたが、いまでは外国の農産物との競争は難しい状況で、また長年基地となっていた土地が返還されてもすぐに農地として使え

るわけではない。地主達の中にも「土地の返還よりも、基地から入ってくる借用料のほうが徳」と考える人も多い。

沖縄の経済の中心は今は観光だが、去年のテロ以降、観光も打撃を受けています。高卒の就職率も沖縄県は全国中でもかなり低い。経済面で基地の持つ割合はまだまだ大きいのです。基地の問題は「返還さえすれば良い」というような単純な問題ではないのです。

<懸賞プレゼント>

現2年生の廊下と教室の「るるぶ」を見て、次の問いに答えて下さい。全問正解の応募者の方から抽選で5名の方にちょっとしたプレゼントを差し上げます。提出先は2-4担任石井、応募の〆切は9日の17時までとします。(当選はプレゼントを渡すこととし特に発表はいたしません)

<問題>

- (1) 「マーミチャンプルー」に入れる「マーミ」とは何?

- (2) 琉球王国の最後の王様の名前は? (琉球処分で東京に連れて行かれた)

- (3) 私たちの修学旅行の初日のコンサートはだれのコンサート?

- (4) 沖縄出身の有名人(展示してあるものから)をひとり書いて

- (5) 沖縄で飢饉(ききん)の時に、毒を抜いて食べたものは何ですか(——地獄という)

(6) 1981年に新発見された沖縄の北部にいる鳥の名前は何かという

(7) 沖縄で曲がり角やT字路でよくみかける魔よけを何という

(8) 人が住む日本最南端の島の名前は何かという

クラス	名前
-----	----